



おにぎり通信

2021年4月17日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

「奇跡の3連発」阪神のバース・掛布・岡田の甲子園バックスクリーン3連発は、1985年の今日4月17日の巨人戦で飛び出しましたが、あれから36年が経ちました。この年、阪神は勢いに乗って最初で最後の日本一となりましたが、その後は、リーグ優勝も2005年を最後に15年以上も遠ざかっています。かつて阪神の監督を務め、昨年亡くなった野村克也さん曰く、弱くても人気があるので、選手にも球団にも甘さがあるのが、阪神が勝てない元凶だとか。今年は調子の良いスタートを切りましたが、どうなりますでしょうか。


福祉行動は、しばらくお休みします。


お困りの方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌月曜日に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

 おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ

 おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麹町6-5-1 聖イグナチオ教会
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)

うえのえきこうえんぐち
【JR上野駅公園口】

小説『JR上野駅公園口』は、集団就職で上京して家族のために働き続けたが、やがて上野公園で生活するようになった福島出身の男性を主人公とした物語です。東日本大震災の後に福島に移り住んだ芥川賞作家・柳美里さんが書いたもので、昨年アメリカで大きな賞をとり、日本でもベストセラーとなっています。柳さんはこの作品を書くにあたり、上野公園で生活する人たちに話を聞いて回りました。その中で、集団就職や出稼ぎで上京してきた東北出身者が多いことを知り、それが『JR上野駅公園口』の筋書きへ繋がりました。

上野公園で生活する人に話を聞く中で、柳さんは、「あなたには家があるでしょ、でも自分たちにはない。ある人になくいる人のことは分からない。」というふうに言われました。柳さんは、こう言います。「その苦しみや痛みは分からない。だが、出会った人が自分の中に流れ込んでいったときに、自分がほどけていくのを感じた。自分という垣根が取り払われていろんな人が流れこんできて、そこで自分を編み直せると思った。だから、『JR上野駅公園口』は、ある意味で自分の物語を書くように、主人公の物語を書いた。なぜここに辿り着いたのか、『JR上野駅公園口』は彼らの小さい時からを一步一步辿った小説である。」

柳さんは、幼い頃から両親の喧嘩が絶えず、学校でもいじめを受け中退しましたが、そんな時に支えとなったのが本の物語でした。『JR上野駅公園口』は、妻や息子の死という悲しみを経てきた主人公の物語です。柳さんは言います。「悲しい物語を読んで他者の悲しみに触れることで、どこか自分の悲しみが触れて慰められるというような作用があるのではないかと思う。悲しい物語を読むことによって悲しみを流すことができる。悲しみは生きていく上で大事。それを否定しないで大事に抱えて生きていく。物語はそのための器である。」